

7. 構成部品の脱着と調整

7-1 脱着時の共通注意事項

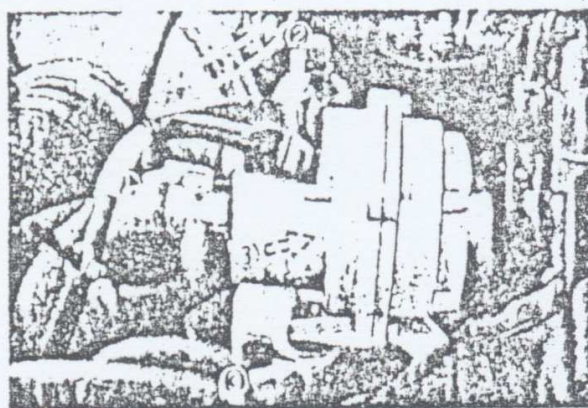
- ① 構成部品の不具合により取りはずす場合は、原則として修理するかわりにアッセンブリで交換してください。
- ② コネクタを抜く場合はコネクタの側面を押えて行ない、決してケーブルで引き抜いてはなりません。
- ③ コネクタを取り付けた時はラバーキャップをコネクタにしっかりとかぶせてください。
- ④ 部品の脱着を行なう場合は、バッテリーの接続をはずしてください。

7-2 プレッシュセンサ

プレッシュセンサはエンジンルーム内の右側ホイールハウス部に取り付けられています。

(1) 取りはずし、取付け

- ① バキュームホースのクリップをゆるめてホースを取りはずします。
- ② 4極のコネクタを抜きます。
- ③ 10mmのスパナで締付けスクリュ2本をゆるめて取りはずします。
- ④ 取付けは取りはずしの逆に行ないます。



第 27 図

取付けの注意

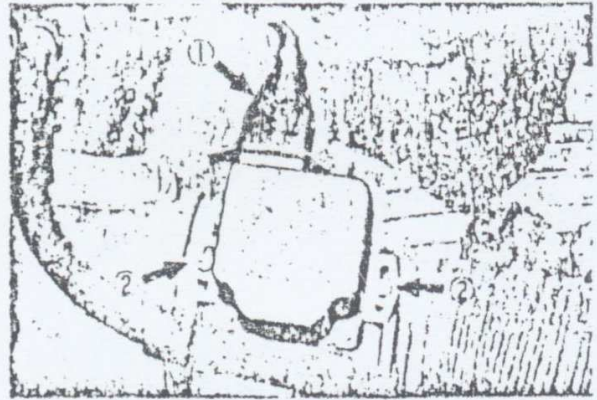
- 1) 新品のプレッシュセンサのホース接続部に取り付けられている保護スリーブはバキュームホースを取り付けるまで取りはずさないこと。
- 2) ほこり、塵は絶対に避けること。
- 3) 4極のコネクタが確実に接続されているか点検すること。

7-3 スロットルポジション・スイッチ

スロットルポジション・スイッチはスロットルバルブ部に取り付けられています。

(1) 取りはずし

- ① 4極のコネクタを抜きます。
- ② 2本の締付けスクリユを取りはずし、スロットルバルブ・シャフトからスイッチを引き出します。



第 28 図

(2) スロットルポジション・スイッチの調整

スロットルポジション・スイッチはスロットルバルブが完全に閉じた位置から、約1°開いた時に作動しなければなりません。

調整を容易にするためにスイッチのベースプレートに1目盛2°の目盛りが刻まれています。

調整は次の順序で行ないます。

- ① イグニッションスイッチをOFFにします。
- ② 4極のコネクタを抜きます。
- ③ スロットルポジション・スイッチが回転できる程度に2本の締付けスクリユをゆるめます。
- ④ スロットルポジション・スイッチの端子③と端子①をテストを介して接続します。
- ⑤ テスタの針が∞から0に動くまでスロットルポジション・スイッチを静かに回転します。
- ⑥ この位置からスイッチをさらに半目盛(約1°)回し、締付けスクリユを締め付けます。
- ⑦ 4極のコネクタを接続し、スロットルバルブを作動してスロットルポジション・スイッチの調整状態を点検します。(点検方法は点検基準書の項を参照してください)



第 29 図



第 30 図

注 意

ECGI専用検査器を使用して行なう場合は、コントロールユニットを取りはずしてケーブルハーネス側のコネクタを検査器に取り付け、検査器のスイッチを所定の位置にセットして行ないます。(詳細はECGI装置の点検の項参照)

7-4 プレッシャレギュレータ

プレッサレギュレータはエンジンルーム内の右側ホイールハウス部に取り付けられています。

(1) 取りはずし、取付け

- ① プレッシャレギュレータのホースクランプをゆるめ、ホースを取りはずします。
燃料が流れ出ますので注意してください。
- ② 27mmのスパナを用いて締付けナットをゆるめ、プレッサレギュレータを取りはずします。
- ③ 取り付けは取りはずしの逆に行ないます。

なお、ホース接続の際は燃料漏れを起さないよう注意深く行なってください。

(2) プレッシャレギュレータの調整

燃料の圧力は燃料消費量に大きく影響すると共に、排気ガスの成分にも影響しますから測定した燃圧が標準値の $2\text{kg}/\text{cm}^2$ より高いか低い場合にのみ、プレッサレギュレータで正確に調整しなければなりません。

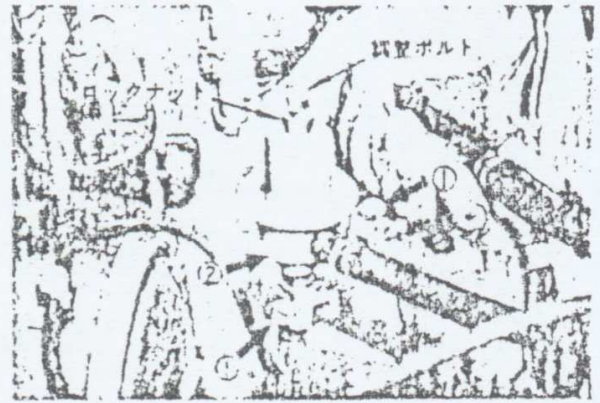
- ① プレッシャゲージをスタートインジェクタへの分岐点のフューエルホースに接続します。
- ② エンジンを始動して、アイドリング回転させます。
- ③ プレッシャレギュレータのロックナットをゆるめ、調整ボルトを回して、燃料の圧力を $2\text{kg}/\text{cm}^2$ にセットします。
- ④ ロックナットをしっかりと締付けます。
- ⑤ プレッシャゲージを取りはずし、スタートインジェクタにホースを確実に取り付けます。

7-5 テンパラチュアセンサ I (吸入空気)

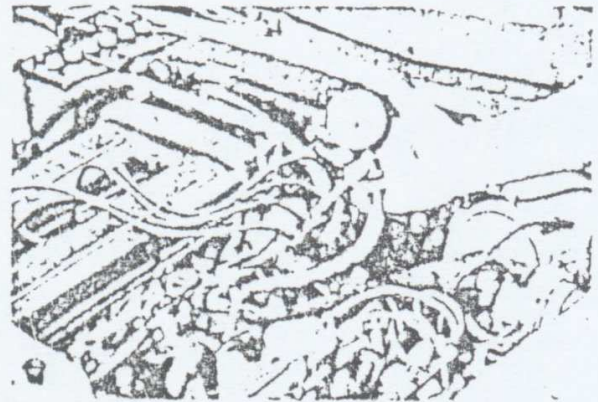
テンパラチュアセンサ I はエアークリーナの空気吸入口に取り付けられています。

取りはずしは13mmのスパナを用いて行ないます。

取り付けの際はテンパラチュアセンサを締めすぎないように注意してください。



第 31 図



第 32 図



第 33 図

7-6 テンパラチュアセンサⅡ (冷却水)

テンパラチュアセンサⅡはサーモスタットハウジングに取り付けられています。

(1) 取りはずし、取付け

- ① 冷却水の一部を抜きとります。
- ② コネクタを抜き、13mmのスパナでセンサを取りはずします。
- ③ 取付けは取りはずしの逆に行ない、冷却水を補給します。

なお、取付けの際は、必ず新品のパッキンと交換してください。



第 34 図

0 7-7 オキシリアリ・エアーバルブ

オキシリアリ・エアーバルブはシリンダボデーの冷却水通路に取り付けられています。

(1) 取りはずし、取付け

- ① 冷却水の一部を抜きとります。
- ② エアーバルブのエアーホースのクリップをゆるめて、ホースを切り離します。
- ③ 2箇の締付けナットをゆるめてはずし、エアーバルブを引き出します。
- ④ 取付けは取りはずしの逆に行ない、冷却水を補給します。

なお、取付けの際は、シリンダボデーとエアーバルブ間のパッキンを、必ず新品と交換してください。



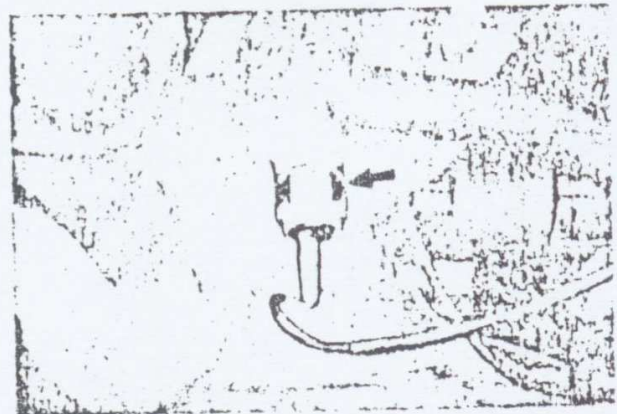
第 35 図

7-8 テンパラチュアスイッチ

テンパラチュアスイッチはサーモスタットハウジングに取り付けられています。

(1) 取りはずし、取付け

- ① 冷却水の一部を抜き取ります。
- ② コネクタを抜きます。
- ③ 24mmのスパナでテンパラチュアスイッチを取りはずします。
- ④ 取付けは取りはずしの逆に行ない、冷却水を補給します。



第 36 図

なお、取り付けの際は、必ず新品のパッキンと交換してください。

7-9 フューエルインジェクタ

フューエルインジェクタは各シリンダごとのインレットマニホールドに取り付けられています。

(1) 取りはずし

- ① 全てのインジェクタのホースクリップをゆるめ、フューエル・ディストリビュータパイプを切り離します。
- ② インジェクタの2極のコネクタを抜き取ります。
- ③ 10mmのソケットレンチでナットをゆるめ、ホールディングプレートと共にインジェクタを引き抜きます。
- ④ インジェクタからラバーリング、ホールディングプレートを取りはずします。



第 37 図

(2) 取 付 け

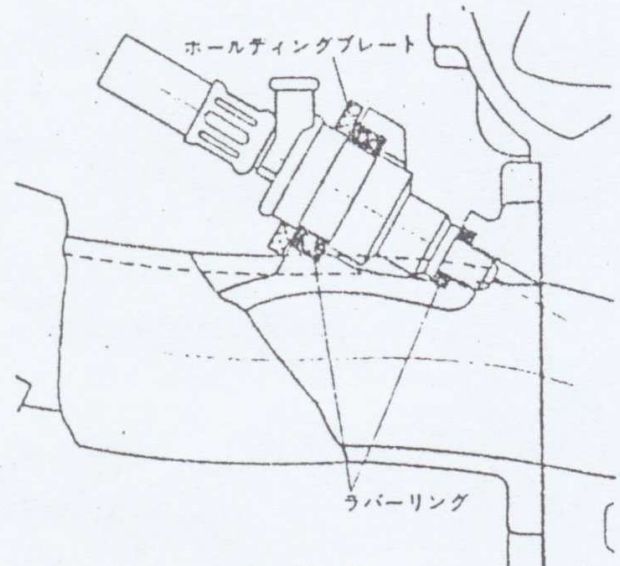
- ① ホールディングプレートをインジェクタに入れ、噴射口側から大きなラバーリングを押し込みます。

この時、ラバーリングが正しい位置に入っているかを確認してください。

- ② インジェクタに小さなラバーリングを入れます。

このラバーリングは、必ず新品と交換してください。

- ③ インジェクタをインレットマニホールドに押し込み、締付けナットを平均に締め付けます。



第 38 図

注意 組付けの際、インジェクタのニードルを損傷しないよう注意してください。

- ④ インジェクタのコネクタを接続し、ラバーキャップをかぶせます。
- ⑤ フューエル・ディストリビュータパイプを接続し、ホースクランプをしっかりと締め付けます。

7-10 スタートインジェクタ

スタートインジェクタはコモンチャンパの上面に取り付けられています。

(1) 取りはずし、取付け

- ① 2極のコネクタを抜き取ります。
- ② フューエルホースのクランプをゆるめ、ホースを切り離します。
- ③ スタートインジェクタの締付けナットをゆるめてはずします。
- ④ スタートインジェクタをコモンチャンパから引き出します。
- ⑤ 取付けは取りはずしの逆に行ないます。

なお、スタートインジェクタとコモンチャンパ間のパッキンは新品と交換してください。



第 39 図

7-11 フューエルフィルタ

フューエルフィルタはフューエルタンクの下部に取り付けられています。

このフューエルフィルタは走行 20,000km ごとに新品と交換してください。

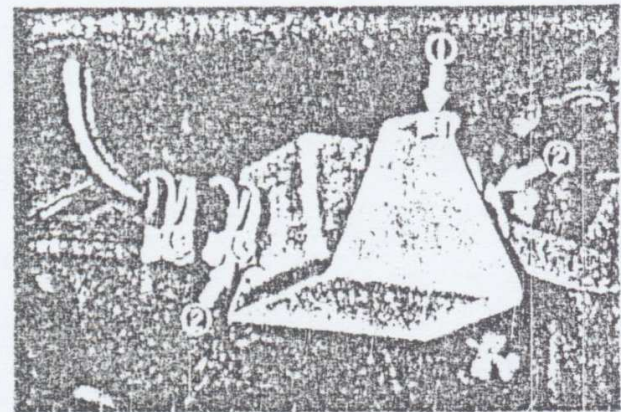
(1) 取りはずし

- ① 10mm スパナで、クランプバンドの締付けスクリューをゆるめ、クランプバンドを取りはずします。
- ② フューエルホースのクランプをゆるめ、ホースからフィルタを取りはずします。

注意 ホースを切り離すと、燃料が流れ出ますから注意してください。

- ③ 取付けは取りはずしの逆に行ないます。

注意 取付けの際はフィルタの矢印と燃料の流れ方向を確かめて取り付けてください。



第 40 図

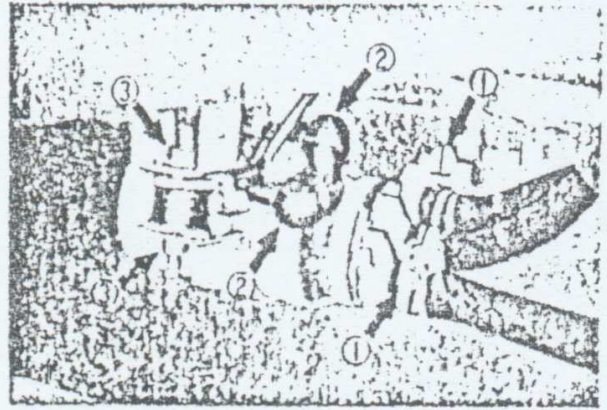
7-12 フューエルポンプ

フューエルポンプは右側後部のホイールハウス部に取り付けられています。

(1) 取りはずし、取付け

- ① 3本のフューエルホースのクランプをゆるめてホースを引き抜きます。

注意 ホースを切り離すと、燃料が流れ出しますので注意してください。

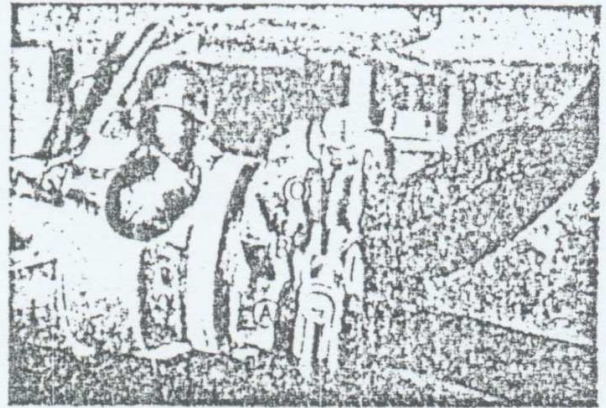


第 41 図

- ② ポンプコネクタのケーブルを切り離します。
- ③ スパナで、ポンプの締付けスクリュをゆるめてポンプを引き出します。
- ④ 取り付けは取りはずしの逆に行ないます。

取付けの注意

- 1) 全てのホースをしっかりと接続すること。
- 2) フューエルホースの接続を間違えないようにすること。
 - Ⓐ 吸込み側 (ポンプ部の浮き出しマーク：S)
 - Ⓑ 圧力側 (　　　　　　　　　：D)
 - Ⓒ もどし側 (　　　　　　　　　：R)
- 3) コネクタのラバーキャップはしっかりとかぶせること。



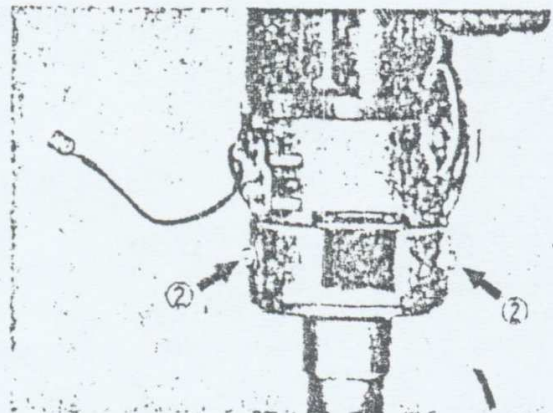
第 42 図

7-13 ディストリビュータのトリガコンタクト

トリガコンタクトはディストリビュータ下部のホルダ内に取り付けられています。

(1) 取りはずし、取付け

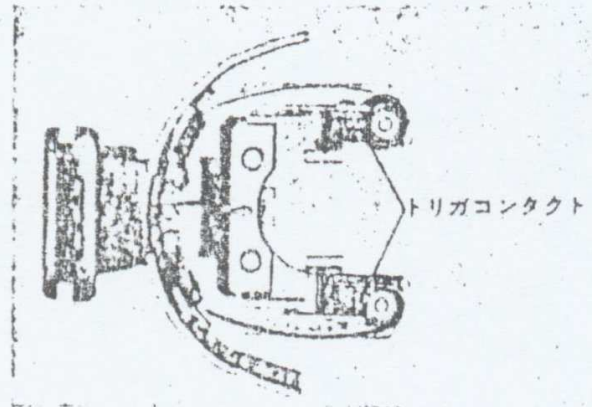
- ① ディストリビュータを取りはずします。
- ② ディストリビュータ下部のホルダを締付けているスクリュをゆるめてはずします。
- ③ ホルダをディストリビュータから引き出します。
- ④ 取り付けは取りはずしの逆に行ないます。



第 43 図

注意

- 1) トリガコンタクトの調整はできません。
- 2) 新品のホルダと交換する場合はコンタクトブレーカ・レバーの摺動面にグリースを塗布してください。



第 44 図

7-14 点火時期の調整

ストロボ式のタイミングライトで点火時期を測定するときは、ディストリビュータのパキュームホースを切り離した状態で行ないます。

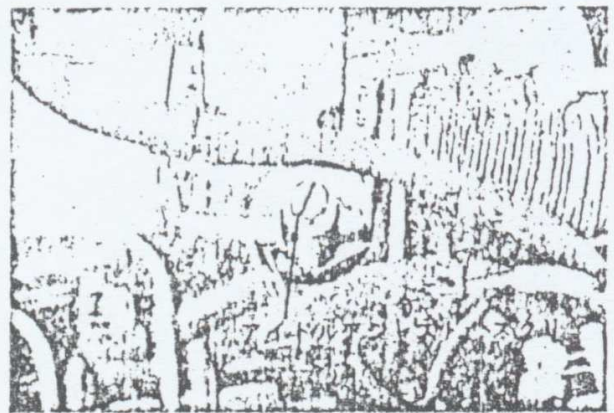
上死点前 10°/900rpm

7-15 アイドリング回転数の調整

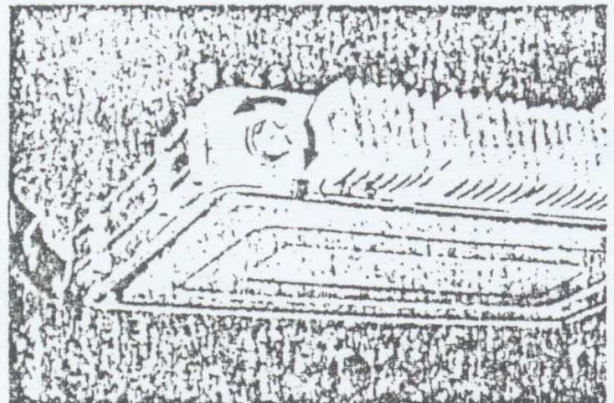
基本アイドル回転数 900 rpm

アイドル調整を行なう場合は、次の順序で調整します。

- ① エンジンを十分に暖機(冷却水温度70°C以上)します。
- ② スロットルバルブに設けられたバイパス通路の断面積をアイドルアジャスト・スクリュによって変化させ、規定のアイドル回転数にします。
- ③ この状態で一酸化炭素の排出濃度をCOメータで測定し、COメータの読みが2.5~3.5%の間であれば、アイドル調整は完了します。
- ④ もし、CO濃度が規制値を越える場合は、コントロールユニットを取りはずし、コントロールユニットのアイドルCOの調整ノブを左に回してCO濃度を2.5~3.5%に調整し、再びアイドルアジャスト・スクリュで規定のアイドル回転数に調整します。



第 45 図



第 46 図